

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町4-36

編集責任者 牧師・司祭 ミカエル小南 晃

新年を迎えて

～人生における三つの坂～

神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなさる業を初めから終わりまで見極めることは許されていない。

(コヘレトの言葉3章11節)

「人生には三つの坂がある。上り坂と下り坂。そして今一つは『まさか』である」

まずは上り坂とは順境、下り坂とは逆境と言うことでしょう。しかしそれだけで無く年齢段階としても見る事ができます。

若い時は精一杯努力して上を目指し、上り坂を登ることが大切かと思えます。新年を迎える時はそのための抱負を抱く機会となるでしょう。また下り坂とは老境に入っていく状況とも言えますが、単に哀愁や否定的な面からだけ見るべきものではなく、人生の意味や喜びを確かめて行くための大切な時の筈です。新年にあたっては「たとえわたしたちの『外なる人』は衰えていくとしても、わたしたちの『内なる人』は日々新たにされていきます。

(Ⅱコリント4:16)」などのみ言葉からそのことを思い起こしたいものです。

「まさか」のさか

しかしこの名言の神髄は「まさか」を語る点にあります。「人生には予想のつかないことが起こる。そのことを心しなさい。」ということです。冒頭で引用した「神のなさる業を初めか

ら終わりまで見極めることは許されていない」とは、神の業は人には予測不能であり、それをわかったかのように思っているとすれば傲慢だということです。即ち、神の前に謙虚になることこそが大切だということであり、それは「まさか」のさかを覚えることにも通じます。

この名言の出典は色々言われていますが、一説には親鸞聖人の言葉とも言われています。

能登半島地震

ところで元日の夕方、姫路でもかなり揺れて驚きましたが、能登半島では地域によっては震度7の大地震と、地震発生直後に津波が押し寄せるといって大災害が起こりました。

また救援に羽田を飛び立とうとした海上保安庁の飛行機と日航の旅客機が衝突するという大事故が起こり、被災地とこの事故のニュース映像を前に「新年おめでとうございます」の挨拶に口ごもってしまうのを感じます。

「まさか」のさかがあることを改めて思い知らされた観があります。

このよう災害は何時起こっても悲劇ですが、新年を祝って一家団欒の時に起こったことで、被災者の方々を思うとさらに心の痛みを覚えます。厳寒の北陸地方にあってご家族の捜索が続いている方々、避難生活を強いられている方々のために心からお祈りしたいと思います。

同時に私たちが今一度、主なる神に生かされていることを覚え、新年を迎えることができることを謙虚になって主に感謝したいと思います。

そして今年も主イエス・キリストの御跡に従い、主から託されていることを果たしていくことを共に努めて参りましょう。